

石清水正八幡宮は王城の南にして、行程四里、綴喜郡男山鳩嶺に御鎮座あり。

新統古今 やはた山跡たれ初ししめの内に猶万代と松風ぞふく

後 鳥羽院

続後撰 なほてらせよ、にかはらぬ男山あふぐ峰よりいづる月影

後久我太政大臣

本社は三坐を祭る、誉田天皇〔日本紀に足仲彦天皇、又応神天皇とも、是仲哀天皇第四の太子にして、御母は神功皇后なり。御在位四十一年、聖寿一百一十一歳〕玉依姫〔東の間に鎮座し給ふ。鵜草葺不合尊の妃にして、神武天皇の御母なり〕神功皇后〔西の間に鎮座し給ふ。開化天皇の曾孫氣長宿禰の女なり。幼より聰明睿智貌容莊麗まします、当帝廿一年に三韓を平て、筑紫にありて応神帝を生給ふ。在位六十九年、聖寿一百歳〕

当山の御鎮座は貞觀二年六月十五日、和州大安寺の沙門行教和尚神殿を造営しけり。行教は筑紫宇佐八幡宮に一夏九旬の間參籠して、昼は大乗の經を讀、夜は真言を誦して法樂せしに、八幡宮御託宣あり。我王城の近に遷坐して鳳闕を守護し、国家を安泰なさしめんとのたまひ、其夜行教の三衣に阿弥陀の三尊現じ給へり。沙門都に上つて此由を奏聞しければ、朝廷大に悦せおはしまし、遂に此山に神殿を営て永崇敬し給ふなり。〔八幡の神号は筑紫宮崎松の下に、八旒の幡降下る、赤幡四旒、白幡四旒、則此所に社を建て、正八幡大菩薩と崇奉る。又一説には、和氣清磨に託して、われは誉田八幡丸とぞ名乗給ふなり。当社は行教の勸請より、兩部にして光を和らげ、利益の塵を同じうし給ふ。しかはあれど令幣使の御ときは、唯一の神道にて諸事執行ありけるとなり〕

一鳥居〔山下宿院にあり。八幡宮の額は佐理卿の筆なり。旧損しければ松花堂これを補す〕

二鳥居〔七曲の麓にあり〕三鳥居〔大師堂の前にあり、石柱に銘を彫、正保二年正月從四位下行信濃守大江姓永井氏尚

政これを建るとあり〕若宮〔仁徳天皇を祭る〕若姫宮〔宇礼姫、呉礼姫を祭る〕水若宮〔宇治の皇子を祭る、仁徳帝の

御弟なり〕

上高良〔武内大臣を祭る、六朝の臣下にして寿三百十余歳〕下高良〔藤大臣連保を祭る、神号は高良玉垂命といふ、干

満の両顆を以て奉行し給ふ、故に玉垂と号すとなり〕石清水〔本殿の巽山の半腹にあり、傍に石清水権現社あり〕

続 古 松もおひ又も苔むす石清水行末とほくつかへまつらん 貫 之

新 拾 神がきやかげも長閑に石清水すまんちとせの末ぞ久しき 為 家

橘樹〔神殿の前にあり〕影向桜〔西の回廊の外にあり〕楠〔東回廊の外にあり。判官正成祈願のため数株栽しに、今

此樹のみ残り、稀代の大木なり〕安宗別当社〔楠の傍にあり。行教和尚の弟子安宗の霊を祭る〕狩尾社〔本殿の西六

町ばかりにあり。大国玉命を祭る〕大塔〔大日多宝の二尊を安置す〕琴塔〔毘沙門天を安ず。軒の四方に琴をかけて風

鈴の代とす〕太子堂〔此堂前を太子坂といふ。南無仏の像、阿弥陀仏等を安置す〕薬師堂〔護国寺といふ。当社御鎮座

以前の草創なり、開基は詳にしれず。本尊は立像の薬師なり〕阿弥陀堂〔八幡宮神作の阿弥陀を安置す〕元三大師堂

〔大師の御影は卿の君の作なり、はじめは比叡山にあり〕愛染堂〔盛輪院と号す、本尊は愛染明王を安置す〕疫尽堂

〔二鳥居の南廊下の内にあり、此所八幡宮御旅所なり。疫神は正月十九日一日の勸請なり。延喜式に曰、山城と撰津の堺に疫神を祭るとあり。世人正月十五日より十九日まで、当山へ群参して其年の疫難を払ふなり。土産には蘇民将来の札、目釘竹、破魔弓、毛鏈等を求めて家に収め、邪鬼を退るなり〕

本地堂〔疫神堂の西に隣る、極楽寺と称す。本尊は阿弥陀仏、脇士は観音勢至を安置す。此三尊は本殿の御正体なり。堂前の鉄燈台は豊臣秀頼公の御寄附なり〕細橋〔八幡住吉の二神影向ありし所なり。石を布て橋の形となし注連をはる、傍に伊勢太神宮遙拜所あり〕

宮本坊〔行教院と号す、開山行教の住給ふ所なり〕瀧本坊〔石清水の傍にあり。松花堂惺々翁昭乗の住房なり、文祿慶長の頃の人にして、書画をよくす。今荒廃におよんで泉坊あり〕開山堂〔行教和尚の像、脇壇には弘法大師、本覚大師の像を安置す。真光院僧正禅助建立し給ふなり〕景清塚〔平家の侍士悪七兵衛景清、主君の讐を酬んとて此所に隠れ、

將軍頼朝御当山参詣をねらひしとぞ〕稲荷社〔小鍛冶宗近此所に祈り名剣を鍛しなり〕大乗院〔宿院科手の間にあり、当山の神宮寺なり。本尊は千手観音を安置す。神殿は神功皇后をまつる。愛染明王は方丈に安置す、開基は興聖菩薩なり〕

足立寺〔本殿の西にあり。むかし称徳天皇弓削道鏡に帝位をゆづり給ふべき旨、和氣清丸を勅使として宇佐八幡宮に訴へ給ふ。神慮これをゆるし給はず、清丸上洛して此旨を奏するに、道鏡怒りて清丸の二つの足をきり、うつほぶねにの

せて流す。此舟宇佐の浜辺による。猪来り清丸を負ふて神殿に至る、ときに社壇より五色の小蛇出て清丸が脛を舐るに、二つ足もとのごとく生出たり。清丸帰洛の後男山をとこやまに伽藍を建て、弥勒仏を安置し、足立寺そくりふじと号す」

三善法寺ぜんはふじ〔当山の社務にして三ヶ寺あり、善法寺、新善法寺、田中善法寺等なり、何れも武内大臣の後胤にして紀氏なり〕五清泉ごせいせん〔石清水いはしみづ、筒井つづ、福井ふくい、藤井ふぢ、赤井等あかなり、其所凶にあり〕

放生会は例歳八月十五日なり。人皇四十四代元正天皇げんしやうの御宇養老四年九月に征夷の事ありて、大隅日向おほすみひうの両国大に逆乱す。故に内裏より筑紫宇佐八幡宮つくしうさに御祈誓ありて、其宮の祢宜からしまかつは辛島勝波豆米つめは神軍を引率してかの国を征し、ことゆゑなく敵を亡しけり。其後八幡の御託宣に、此度の合戦に多くの殺生をなす間放生会をなすべきよし、神勅まししくければ。諸国に至るまでも此時より始るなり。〔扶桑記に見えたり。後三条院延久二年八月十五日より、上卿六府の馬寮を以て、行幸に准じて神輿に扈従し給ふ事これを初めとす〕放生川ほうじやうかは〔八月十六日放生供養ありて、放生亭より魚鳥を放しける〕高橋たかはし〔反橋をいふ〕安居橋あんこのはし〔南のはしをいふ〕

新六帖 男山秋のけふとや契りけん河せにはなつよもの鱗 知 家

臨時祭は三月中午日なり。〔天慶五年より始る〕

石清水いはしみづりんじのまつり

新 勅 ちりもせじ衣にすれるさ、竹の大宮人のかざすさくららは 定 家

餌飼地蔵えがひのぢざう〔小野篁をのゝたかむらの作なり、全昌寺ぜんしやうじの中にあり。放生川はうじやうへ餌をあたへ給ふ本尊なり〕

若宮八幡わかみやはちまん

〔科手しなてにあり〕

常盤地蔵ときはのぢざう

〔ときは町にあり、八幡はちまんの神作なり〕